



119

消防だより

たき火からの出火防止

この時期は空気が乾燥し、風の強い日が多いことから、たき火からの出火に注意が必要です。
上島町内でも、過去にたき火が原因で火災に至ったケースがあり、焼失規模の大きなものとして、次のような山林火災が発生しています。

- ・平成 7 年 3 月 岩城積善山 約 142.0ヘクタール
 - ・平成 21 年 6 月 生名蛙石山 約 5.6ヘクタール
 - ・平成 23 年 4 月 生名鉢巻山 約 4.7ヘクタール
- 十分に注意していても、たき火からの火災が発生することがあるので、次のことに注意し、火災防止を心掛けましょう！

【やむを得ずたき火をする場合の注意事項】

- ・まわりに燃えやすいものがある場所で行わない
- ・風が強い日や、乾燥注意報発令時は行わない
- ・事前に消火用具の準備をする
- ・完全に火が消えるまでその場を離れない

- 「火災とまぎらわしい届出」の提出を行う※急な場合は、消防署に電話連絡

上島町火災予防条例で定められており、上島町HP内に様式があります。右記QRコード▶



令和5年度全国統一防火標語

「火を消して 不安を消して つなぐ未来」

生名小学校消防署見学

生名小学校の1、2年生が社会科見学の一環で消防署の見学に来庁しました。

見学では、消防署の担当者による消防の仕事についての説明を受け、その後は消防車両や消防署内の見学を行いました。児童たちは、初めて見る資機材や消防士が行う訓練を見て目を輝かせていました。



令和5年12月出動件数

地区	弓削	生名	岩城	魚島	その他	合計	R5累計
火災	0	0	0	0	0	0	1
救急	22	8	6	0	0	36	483

(令和5年12月31日現在)

上島町消防署 ☎ 77-4118
上島町消防本部 消防防災課 ☎ 77-3166

地域で団結、守ろう上島町！上島町消防団員募集！！

えひめ救急電話相談

『病院に行くべきか迷ったら # 7119』

フリーダイヤル運用開始

令和5年10月17日に愛媛県が報道等を通じてお知らせしている「えひめ救急電話相談 #7119 における通話料金の一部利用者負担発生」について、通話無料フリーダイヤルの運用を開始していますのでお知らせします。

令和5年12月1日（金）から、フリーダイヤル（0120-79-7119）の運用を開始しており、フリーダイヤルをご利用いただくことで通話料は無料になります。

※「#7119」ダイヤルについては、発信する回線種別および発信先電話番号によっては有料通話となる場合があります。詳細は下記の愛媛県ホームページをご確認ください。

<https://www.pref.ehime.jp/h15300/23syoubou/7119.html>



① 土壌酸性度（土壌 pH）

土を化学的に診断する指標として土の酸性度を土壌 pH という数値で表わします。これは土に含まれる水素イオンの濃度を表すもので、酸性からアルカリ性に区分されます。土の母岩の性質や降雨の影響、化学肥

野菜や果樹の栽培層や教科書には土壌改良剤として石灰質資材（苦土石灰やサンライムなど）を施用するよう書かれています。農作物の栽培に、なぜ石灰質資材が必要なのか、今回は土壌改良としての石灰質資材の効能について解説します。



表 1 作物生育の好適土壌 pH 範囲

作物名	好適な土壌 pH 範囲
ジャガイモ、栗、ブルーベリー	5.3 ~ 5.8 (明酸性)
イチゴ、スイカ、ミカン、柿、サトイモ、小松菜、ニンニク	5.7 ~ 6.2 (弱酸性)
ブドウ、キュウリ、ナス、ネギ、大根、カボチャ、ピーマン、白菜、人参、トウモロコシ	6.0 ~ 6.7 (微酸性)
トマト、ホウレンソウ、キャベツ、エンドウ、タマネギ、ゴボウ	6.5 ~ 7.2 (中性)

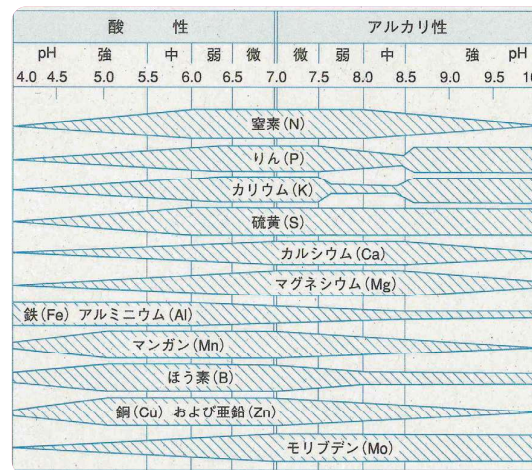


図 1 土壌 pH と肥料要素の溶解・利用度

料により土の中で化学変化により土壌 pH が変化します。上島町を含む瀬戸内海沿岸に多い花崗岩の土は酸性傾向を示しやすく、雨水中に含まれる水素イオンや化学肥料に含まれる硫酸や塩安などの酸性肥料が蓄積して土が酸性化します。逆に石灰のやりすぎ、雨水を入れないマルチ栽培や堆肥のなかには強アルカリ性のものがあり、連年施用によりアルカリになることがあります。土壌酸性度は土を見ただけではわからないので測定器で測らなければわかりません。

② 土壌 pH と作物の生育
農作物の多くは中性に近い弱酸性の土を好む作物が多く（表 1 参照）、好適な土壌 pH から多少ずれても生育が極端に悪くなることはありません。しかし、土には生育に必要な養分が含まれ、強酸性や強アルカリ化により養分が土に溶け出しにくくなったり、過剰に溶け出して養分の欠乏や過剰となります（図 1 参照）。この状態が続くと、作物の成長不良や葉の黄化、果実の変形などの生育異常の原因となります。

③ 土壌 pH の調整
土壌 pH は徐々に変化する反面、すぐに矯正ができません。調整には土壌改良資材の施用が有効な方法として指導されてきました。酸性土壌の矯正には、苦土石灰やかき殻石灰（サンライムなど）など pH 調整効果がゆっくり現れる石灰質資材が使えず、強酸性土壌には即効性のある消石灰や生石灰を施用します。施用時期は、果樹類では一月から二月の休眠期、野菜類では植え付けの一ヶ月から二週間前がよいでしょう。

よう。
苦土石灰やかき殻石灰の酸性の調整能力は 100 kg / 10 a の施用で土壌 pH を 1 上げる効果があります。アルカリ土壌では土壌 pH を下げるため、過リン酸石灰や硫酸、硫酸カリを施用しますが、上げるより下げる方が難しく、アルカリ化になった原因と考えられる石灰の施用を中止し、雨水を入れることから始めてみましょう。
土壌 pH が適正であっても土壌の養分バランスやカルシウム補給のため苦土石灰やサンライムを毎年施用することは必要で、あわせて有機物の多い土は肥料成分の吸着力が強くなり弱酸性から中性を保ちやすくする働きがあるので、優良な堆肥や有機物を施用するとよいでしょう。
土壌 pH の測定の希望がありましたら、しまなみ農業指導班岩城駐在所（電話 752014）村上まで連絡ください。